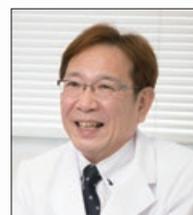


周産期医療における漢方治療の実際

社会福祉法人 大阪府済生会吹田病院
周産期センター長 兼 産科科長

亀谷 英輝 先生



1983年 近畿大学 医学部 卒業
同 年～ 大阪医科大学附属病院、高槻赤十字病院、公立甲賀病院に勤務
2001年 大阪医科大学 講師(産婦人科学担当)
2006年 大阪医科大学附属病院 産科・内分泌科 科長
2008年 大阪医科大学 准教授
2014年～ 現職

1911年、明治天皇の「恵まれない人々のために施薬救療(無償で治療すること)し、済生(生命を救済すること)の道を弘めるように」との済生勅語により設立された「済生会」は、2011年に創立100周年を迎えた。そして1945年10月、吹田市民の浄財により旧吹田町役場跡にて診療をはじめた済生会吹田病院は、設立当初より大阪府北部(北摂地区)における地域医療の中核病院としての役割を担っている。「周産期医療をとおして全国に誇れる病院にしたい」とおっしゃる同院周産期センター長の亀谷英輝先生は、日常診療において漢方治療も積極的に取り入れておられる。周産期医療の現場で漢方薬がどのように用いられているか、その一端を亀谷先生にお伺いした。

済生会吹田病院 産婦人科について

産婦人科における大きな柱は「産科」・「婦人科」・「生殖医療」ですが、当科では少なくとも産科と婦人科については大学病院と同等レベルの高度な医療を患者さんにご提供していると自負しています。その一例として、当科には全国で500名ほどしかいない周産期専門医(母体・胎児)が5名、また周産期専門医(新生児)が3名在籍しています。

病院設立時に開設された当科は、開設当初から北摂地区の妊婦さんの大半を受け入れていたこともあり、一時期には分娩数が全国一になったこともあります。現在でも年間

の分娩数は約1,000件ですが、大阪府の周産期医療基幹病院(大阪府地域周産期母子医療センターの認定)として、さらに大阪府が世界に先駆けて構築した母体救急搬送システム(OGCS)の準基幹病院として救急搬送を24時間受け入れる体制を整えており、ハイリスクな妊婦さんも積極的に受け入れています。

当科における漢方診療 - 芍薬甘草湯 -

当科では、日常の診療に漢方薬も積極的に取り入れています(表1)。

- 芍薬甘草湯の臨床応用 月経困難症に伴う痛み -

漢方薬は時に期待以上の効果を発揮することがあります。その一例に、月経困難症に伴う痛みに対する芍薬甘草湯の効果が挙げられます。

患者さんの中には痛みに対して芍薬甘草湯が奏効する方がいらっしゃるのですが、それらの患者さんは再診時に何らかの効果を実感されます。そこで、引き続き服用していただくと、より効果が高まるという特徴があり、中にはオピオイド系鎮痛薬(ペンタゾジン)よりも高い効果を示す場合があります。一方で、芍薬甘草湯が無効の患者さんもいらっしゃるのですが、効果の有無は患者さんの腸内細菌によるものではないかと考えています。

漢方薬に含まれる成分の多くは配糖体で、吸収過程で腸

表1 済生会吹田病院産婦人科で主に使用されている漢方薬と主な対象疾患

漢方薬	主な対象疾患
当帰芍薬散	更年期障害 (患者の証による使い分け)
加味逍遙散	
桂枝茯苓丸	
補中益気湯	術後、産後の体力低下
芍薬甘草湯	月経困難症(著効する症例がある)
葛根湯	妊婦の風邪
小青竜湯	気管支喘息、アレルギー性鼻炎
柴苓湯	妊娠時の浮腫、帝王切開後肥厚性瘢痕など
防風通聖散	肥満症

内細菌によって糖が切り離され、その代謝産物が吸収されます。芍薬甘草湯が有効な患者さんは、芍薬甘草湯の成分を代謝する腸内細菌を持っており、さらに服用を続けることによって、その腸内細菌が増加していると考えられます。

当科における漢方診療 - 柴苓湯 -

当科で使用している漢方薬の中でも、特に私が効果を実感している処方柴苓湯です。

柴苓湯は多彩な薬理作用を有しており、当科でも幅広く臨床応用しています。たとえば、妊娠高血圧症候群がまだ妊娠中毒症と称されていたころから、妊婦さんの浮腫はもちろん、タンパク尿の改善を目的に用いていましたし、現在は不育症に含まれる習慣流産の治療にも有効性が確認されているなど、その応用範囲は非常に広いといえます(表2)。

その中で、特に現代医学においても治療に難渋する疾患である多嚢胞性卵巣症候群 (Polycystic ovary syndrome: PCOS) と、帝王切開後肥厚性癭痕についてご紹介します。

一柴苓湯の臨床応用① 多嚢胞性卵巣症候群一

柴苓湯は今でこそ、PCOSの治療薬の一つに位置付けられていますが、以前はPCOSの治療には温経湯が主に用いられていました。

私もPCOSの患者さんには温経湯を処方していたのですが、ある患者さんに、内分泌系にも何らかの作用を発揮する可能性が報告されるようになった柴苓湯を試しに処方してみました。そうしたところ症状は改善しましたし、排卵も始まり基礎体温も改善したという著効例を経験しました。

この症例については報告していませんが、ひょっとしたらPCOSに柴苓湯が有効であることを初めて確認したのは私かもしれません。

一柴苓湯の臨床応用② 帝王切開後肥厚性癭痕一

帝王切開後の肥厚性癭痕は、近年非常に増加している印象があり、治療に難渋することがありますが、授乳中でも安全に使用できる柴苓湯が有効であることを確認しています。

表2 柴苓湯が臨床応用される主な疾患と推定される作用機序

主な対象疾患	推定される作用機序
妊娠時の浮腫 (高血圧、タンパク尿)	水分代謝調節作用 抗炎症作用
帝王切開後肥厚性癭痕*	線維芽細胞増殖抑制作用 ステロイド様作用
不妊症 (多嚢胞性卵巣症候群: PCOS)	アロマターゼ阻害作用 エストロゲン様作用
排卵障害(月経不順)	卵巣機能改善作用
不育症 (抗リン脂質抗体症候群)	免疫調整作用



柴苓湯の肥厚性癭痕に対する効果と薬理作用については、私が大阪医科大学に在籍している頃からの研究テーマです。私たちの研究結果の詳細は莊園ヘキ子先生(現、第二協立病院)が本誌にも報告されていますので、是非ご一読いただきたいと思います*。

漢方治療がより発展するために

漢方医学の歴史は非常に古く、漢方薬の多くは長年の経験に基づいて処方されています。しかし、漢方薬といえども基礎・臨床のデータを蓄積することが必要と考え、われわれは肥厚性癭痕に対する柴苓湯の効果に注目し、その作用メカニズムを明らかにしました。患者さんの漢方薬に対するニーズは非常に高いですから、医師が自信を持って処方できるよう、このようなデータを蓄積することが必要だと思います。

また、漢方薬は柴苓湯や芍薬甘草湯の臨床応用でもご紹介したように、長期間の服用が必要なケースが多いことから、治療効果を高めるためにも患者さんの服薬コンプライアンスを低下させないことが重要です。現在、漢方エキス製剤には1日2回服用の製剤と1日3回服用の製剤がありますが、飲み忘れることなく、確実に服用していただくためには1日2回の服用が好ましいと思います。さらに製剤技術の向上に伴い、1日1回服用の製剤が登場すれば、服薬コンプライアンスのより一層の向上にもつながると思います。

地域のNo.1に、そして全国に誇れる病院に

当院は、“目指そう地域No.1の病院を”を本年度のビジョンにしていますが、私は産婦人科の医療をとおして、当院をわが国に誇ることができるような病院にしたいと思っています。特に、私が当院に赴任してから体制をより強化している周産期医療において、全国に誇れる病院を目指したいと思っています。

*：帝王切開後肥厚性癭痕に対する柴苓湯の薬理作用については、本誌セミナーレポート(p.14)およびphil漢方 No.58 p.34(柴苓湯の肥厚性癭痕形成に対する薬理作用の検討-TGF-βシグナルを介したメカニズム-)をご参照ください。